

# 2010年度 基本方針

関西子ども文化協会の基本方針—新たな段階を迎えて—

はじめに

関西子ども文化協会は NPO 法人として歩み始めて本年で 11 年目になります。社会全体は、政権交代という状況の中での「不安定な状況」を迎えています。市民活動の役割がますます重要になっていることには間違いありません。

本協会もかつてない規模の予算案を組み活動できる「新しい段階」にあるとの認識に立って総会に臨んでいます。

このような段階に至るには、法人を支える理事会、事務局、会員の不断の努力があったからですが、なかでも事務局のみなさん方のご尽力が大きかったことを確認しておきたいと思えます。事務局を担ってこられた皆さんにここに心から感謝申し上げます。

さて 22 年度は長年の実績をさらに発展させるためのいくつかの提案をさせていただきたいと思えます。総会ではこの提案が活発に討議されより実効性を発揮することを期待します。

## 1・子どもの「貧困」を乗り越える NPO・市民活動を

関西子ども文化協会のミッション子ども権利条約の実現をめざすことです。子どもが精神的にも身体的にもあらゆる場において、安心安全に育つ環境が保障されることがその前提にあります。

しかしながら子どもたちの現実には「貧困化」という渦のなかに置かれているとあって過言ではないでしょう。貧困の第一は経済的困窮状況の拡大です。

第二は成長期の子どもを過度の「競争」に巻き込む教育環境の問題から生じる精神的・文化的困窮状況の拡大です。「競争」を動機付けとした教育システムが、すでに欧米先進国では死語になっているにもかかわらず、日本では依然として、「学力テスト」主義が横行し、多くの子どもが学校外の教育機関とのダブルスクール状況に置かれるか、家庭内でのテレビ・パソコンゲーム世界に取り込まれています。その結果、子どものコミュニケーション機会は極めて少なくなるとともに、「学習のモチベーション」も低下しています。

第三は「児童虐待」の増加にみられるように、子どもが身近な大人の暴力に晒されたり、放置される状況が拡大していることです。「児童虐待」の数値は厚生労働省の統計からも 10 年間で 40 倍という驚くべき増加傾向を見せています。

これら子どもの 3 大貧困状況の背景には子どもの生活、保育・教育システムそのものの問題が横たわっていることは明らかです。関西子ども文化協会はこのような子どもの貧困を拡大しているシステムそのものにメスをいれ、作り変える展望を市民・専門家・行政との協働の力で切り開いていく所存です。

## 2・専門家との共同し「オルタナティブ」(政策提案)を創り出す NPO に

「子どもの貧困化」という状況は今後とも続くと思えますが、この間政権による「高校生の授業料無料化」、「子ども手当の支給」など、ややバラマキ型で不安定感は否めませんが、従来の子ども、教育予算切り捨て型からの脱却傾向が見られ始めています。

しかしながら子どもの生活や文化環境が豊かになり、子どもの権利条約の実現を目指すうえでは、子育て・福祉・教育システムそのものの見直しと並行して、NPO 活動はもとより、市民参加型のシステムそのものが成熟する必要があります。

たとえば、関西こども文化協会では、2 年前から京田辺市・松井山手駅前に、「つくるところ」を京阪電気鉄道（株）、京阪カインド（株）と NPO 法人プラスアーツと協働で運営してきました。

「つくるところ」では 6 名の常勤職員を中心に、事業スタッフやボランティア（延べ 120 名）と地域の利用者（年間利用者数 6,718 名、会員数ファミリー会員 24 組、大人会員 69 名、子ども会員 52 名）が協働で、乳幼児と親との育ち合いの取り組みをつづけています。街（京阪東ローズタウン）そのものはまだ 16 年しか経過していませんが、徐々に新しい街並みが創りだされつつあります。まだほんの端緒ではありますが駅前にかかれた一粒の NPO 活動の「種」が芽をだしやがて街並みのなかで一定の役割を果たすようになることにより、市民参加型の新しい街並みができるのではないのでしょうか。

すでに全国各地で NPO と市民、行政、専門家との協働事業としての参加型「創作（提案）」活動が徐々にですが広まりつつあります。このような NPO 活動が新しい「公共」を創り出す原動力の一つであることを自覚して今後の活動をすすめてゆきたいものです。

### 3・理事・会員の共同した取り組みを発展させる。

本年度は新しい理事を迎えることができ、本協会も一段ステップアップすることになります。会員と理事会とが協同で創り出す新しい活動形態を本年の一つの目標にします。

そのためにも各理事の皆様のご意見や提言、日常活動をホームページをはじめインファernoなどで広報させていただきますのでご協力のほどよろしくお願ひします。

また会員の皆様からもぜひとも提案、提言、ご意見等を積極的に賜りますようお願い申し上げます。

#### \*\*\*\*\*関西こども文化協会のミッションと活動の柱\*\*\*\*\*

- ①子育て・教育というテーマ型の中間支援組織として、「子ども支援」専門の活動を展開。NPO、企業、行政機関の中間支援を行う。とりわけ、NPO などの市民活動を活性化し、様々な子どもの問題や課題の解決に取り組む市民の意欲を高め、活動の場を提供していく。
- ②子どもや青年の問題を考えるセミナーやシンポジウムの実施と支援者研修。啓発活動に加えて、不登校、ひきこもり、非行、居場所づくりの支援コンテンツ、子育て支援のコンテンツを發揮しての支援者研修を行う。また同時に、関係機関や他団体とのネットワークを駆使した活動を展開していく。
- ③教育や子育て支援に向けた情報発信。情報誌「インファerno」の発行と子育てについての総合的な情報提供をするホームページの運営。
- ④子どものさまざまな問題解決のための研究、調査、分析、施策提言。社会の「ニーズ（市民が必要としていること）」や「ウオンズ（市民が望んでいること）」を積極的に捉えることと同時に、当会の「シーズ（技術やノウハウ）」を明らかにし、事業を積極的に開発、展開していく。
- ⑤企業と NPO の共同体で取り組む、子育て支援事業「京阪東ローズタウン共育ステーション“つくるところ”」をはじめとする様々な現場の運営。不登校の子どもの居場所、非行の子どもを持つ親たちの会、つどいの広場、24 時間「いじめ」電話相談など、子ども・青少年をはじめとした市民参画による子育て支援、保育所事業、まちづくり事業に継続的に取り組む。